

科目名	刑法総論Ⅱ	
担当者	藤吉 和史 / FUJIYOSHI, Kazushi	
科目情報	法律 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	犯罪と刑罰に関する法律である刑法の解釈や適用を理解する。刑法総論Ⅱでは、すべての犯罪にとって共通の一般通則のうち、責任論、未遂論、共犯論、罪数論、刑罰論などについて学ぶ。
	到達目標	刑法総論を学ぶことによって、現実社会に起きているさまざまな刑罰法令違反の事件について、一般通則である刑法総論がいかに適用・解釈されているかを理解できるようにする。
授業計画	(1) 責任論3：期待可能性の理論 (2) 責任論4：錯誤論 (3) 未遂犯論1：未遂犯と不能犯 (4) 未遂犯論2：障害未遂と中止未遂 (5) 共犯論1：必要的共犯と任意的共犯 (6) 共犯論2：共同正犯 (7) 共犯論3：教唆犯と幫助犯 (8) 共犯論4：身分犯の共犯 (9) 罪数論1：一罪と数罪 (10) 罪数論2：観念的競合と牽連犯 (11) 罪数論3：併合罪 (12) 刑罰論1：刑罰の種類 (13) 刑罰論2：刑の加重・減輕 (14) 刑罰論3：執行猶予・保護観察 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	テキストとプリントを復習すること。
使用教材・参考文献	【教】三原憲三・津田重憲『刑法総論講義（第4版）』（2006年成文堂） 【参】ポケット六法（有斐閣）、ディリー六法（三省堂）、岩波基本六法（岩波書店）、有斐閣判例六法などのうち、1冊。	
成績評価方法と基準	定期試験において、刑法総論の適用・解釈を60%以上理解したと認められる者を合格とする。出席が学則どおり（3分の2以上）あった者のみ定期試験を受験できる。	
備考	必ず六法を持参すること。とくに国家試験・公務員試験・資格試験をめざす人は判例六法をお勧めします。	